

ホロムイイチゴ (バラ科) の北海道分布

千歳市 五十嵐 博

はじめに

ホロムイイチゴ (ヤチイチゴ) *Rubus chamaemorus* L. は高さ 10-30cm になる雌雄異株の多年草で、横に伸びる地下茎から茎を立てる。葉は腎心形で長さ幅ともに 4-7cm。先は浅く 3-5 裂し、基部は心形。両面に褐色の腺毛と軟毛がある。径 2cm ほどの花が 1 個つき花弁は 4-5 個、雌しべを欠く雄花と雄しべと雌しべが揃う両性花

標本調査

2022 年 3 月 17 日に北海道大学総合博物館 (SAPS) の標本を確認した。51 枚の標本の産地を整理したところ重複が多く地形図名で 19 カ所が確認できた。北から列記すると (声間)、(浅茅野)、(豊徳②)、(浜頓別)、(稚咲内)、(歌登)、(下幌別)、(ピヤシリ山)、(暑寒別岳)、(御料地)、(美唄)、(石狩)、(栗沢)、(野幌)、(チセヌプリ)、(ニ



図1 ホロムイイチゴ 2013.6.6 花：幌延町

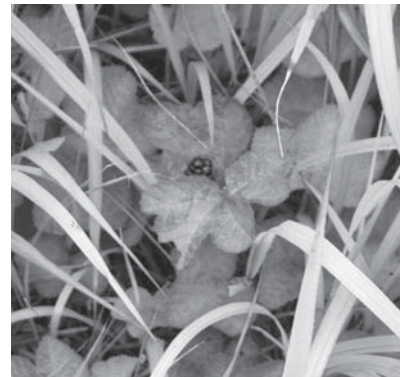


図2 2023.7.15 果実：幌延町

がある。果実は径 1.5cm ほどで赤く熟す。漢字では「幌向苺」と書く。開花は 6~7 月。泥炭湿原に生える。分布は北海道、本州 (北部) である (梅沢 2018)。

ホロムイイチゴをネット検索してみると岩見沢市幌向地区で発見されたことによる命名とあった。

湿原に生えるホロムイイチゴの北海道分布を報告する。以降、() 付地名は国土地理院発行 2.5 万分の 1 地形図名を示す。地名と地図名が同じ場合もある。

セコアンヌプリ)、(中山峠)、(黒松内)、(長万部) である。なお、産地情報が詳しくない標本として釧路、根室があった。

文献調査

Naruhashi and Satomi (1972) のヤチイチゴ (ホロムイイチゴ) の分布図では道内は 14 地点、本州は福島県に 2 地点の分布が示されている。大凡の地形図名を判読すると北から (声間)、(浅茅野)、(浜頓別)、(鬼脇)、(稚咲内)、(振老)、(落之台)、(幌加